

論文番号 211

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Beer, wine, spirits and subjective health

ビール、ワイン、蒸留酒の嗜好と主観的健康状態

執筆者

M Grønbaek, EL Mortensen, K Mygind, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

J Epidemiol Community Health 53: 721-724, 1999

キーワード

ビール ワイン 蒸留酒 主観的健康状態

要旨

(目的) 摂取しているアルコール飲料の種類と主観的な健康状態との関係を調べる。

(方法) デンマークで行われた WHO コペンハーゲン健康都市調査の対象者である年齢18～100歳の男性4,113名、女性7,926名について調査した。自記式の断面調査にて、平日に摂取するアルコールの種類(ビール・ワイン・蒸留酒)、喫煙習慣、人間関係、運動習慣、ボディーマスインデックス(BMI)、教育レベル、調査時点での罹病状態、主観的な健康度について調べた。

結果

12,039名の対象者の内、「健康である」(「健康状態は非常に良い」あるいは「健康状態は良い」と回答したのが8,680名、「健康ではない」(「普通」、「健康状態は悪い」あるいは「健康状態は非常に悪い」と回答したのが3,359名であった。性・年齢などを調整して、アルコール摂取量と「健康ではない」と回答した割合を検討したところ、J字型のカーブの関係になった。アルコールの種類に関わらず、多量飲酒者では「健康ではない」と回答した割合が高かった。「健康ではない」と回答した割合が有意に低かったのは、ワインを少量(調査前日にワイングラスで1～2杯)または中等量(調査前日にワイングラスで3～5杯)飲酒している群のみであり、ワインを飲まない群と比較して、「健康ではない」と回答することに対するオッズ比は、少量群で0.72(95%信頼区間0.56-0.92)、中等量群では0.65(95%信頼区間0.49-0.87)であった。中等量のビール・蒸留酒の飲酒者は、ビール・蒸留酒を飲まない群と比較して、「健康ではない」と回答する率に有意差はなかった。ビールを好む群の方がワインを好む群よりも「健康ではない」と回答する率が有意に高く、そのオッズ比は1.50(95%信頼区間1.25-1.80)であった。

(結論) 少量から中等量のワイン飲酒者では、「健康である」と回答する人が多く、ビール・蒸留酒の飲酒者ではそのような傾向は見られなかった。但し、自記式の断面調査なので、因果関係については保証されず、アルコール飲料の種類と罹患・死亡率については更に検討が必要である。